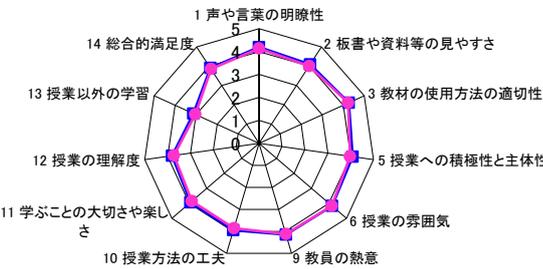


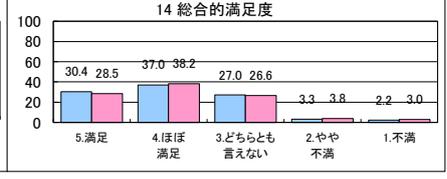
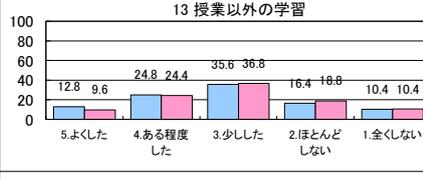
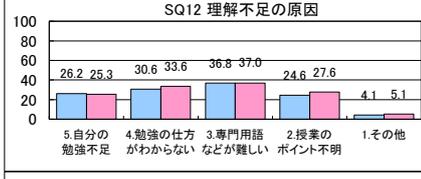
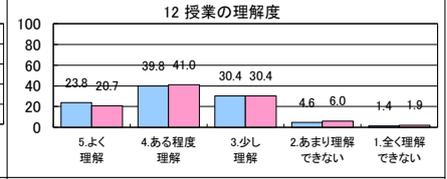
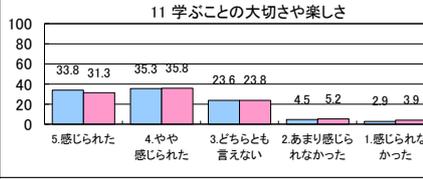
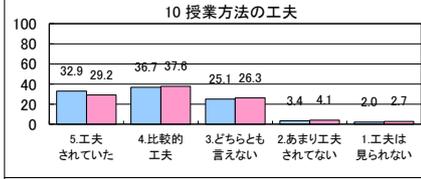
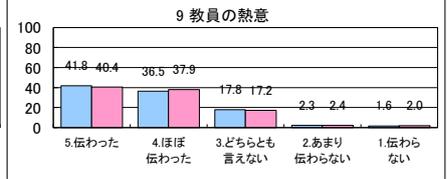
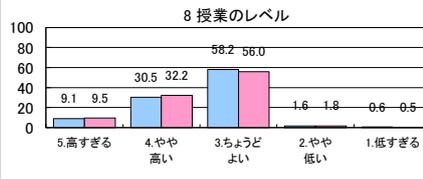
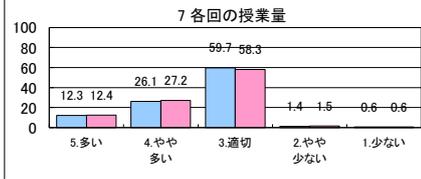
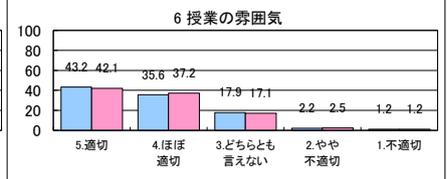
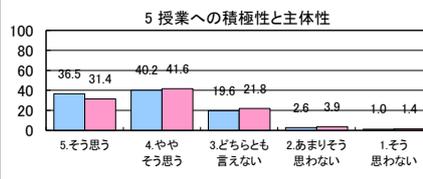
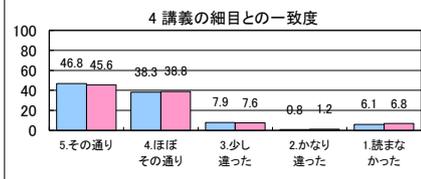
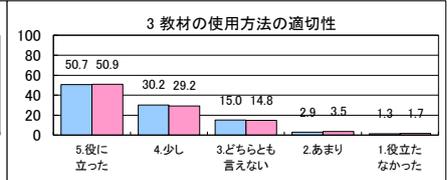
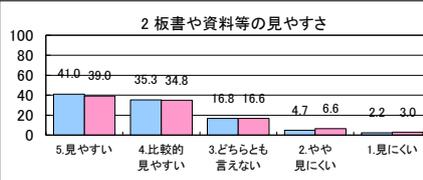
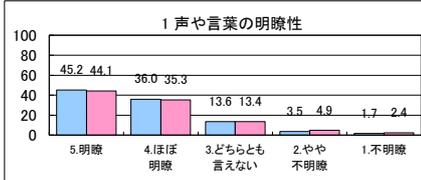
集計区分	総合計	開講曜日		回答者	37,676				
担当教員		開講時間		回答率	81.3%				
履修者数	46,344	開講場所		平均	無効回答				
		回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	前回平均	平均	無効回答
1 声や言葉の明瞭性		17,002	13,528	5,103	1,317	654	4.14	4.19	72
2 板書や資料等の見やすさ		15,371	13,219	6,309	1,765	806	4.00	4.08	206
3 教材の使用方法的適切性		18,938	11,278	5,606	1,092	470	4.24	4.26	292
4 講義の細目との一致度		17,493	14,309	2,963	314	2,266	3.15	3.19	331
5 授業への積極性と主体性		13,695	15,085	7,346	985	385	3.98	4.09	180
6 授業の雰囲気		16,131	13,278	6,677	816	442	4.16	4.17	332
7 各回の授業量		4,612	9,780	22,367	511	223	3.49	3.48	183
8 授業のレベル		3,389	11,408	21,795	616	228	3.49	3.46	240
9 教員の熱意		15,650	13,660	6,679	844	605	4.12	4.15	238
10 授業方法の工夫		12,274	13,676	9,341	1,255	739	3.86	3.95	391
11 学ぶことの大切さや楽しさ		12,598	13,187	8,804	1,669	1,069	3.85	3.93	349
12 授業の理解度		8,838	14,770	11,262	1,710	512	3.73	3.80	584
SQ12 理解不足の原因		1,042	1,215	1,464	977	164	-	-	-
13 授業以外の学習		4,667	9,090	13,026	5,995	3,817	3.04	3.13	1,081
14 総合的満足度		10,292	12,533	9,153	1,117	753	3.85	3.90	3,828
SQ14 不満者の改善意見		916	699	1,140	384	207	-	-	-
15 各教員別質問事項1		929	890	768	111	79	-	-	34,899
16 各教員別質問事項2		505	496	461	156	95	-	-	35,963
17 各教員別質問事項3		339	363	346	79	120	-	-	36,429

各項目の平均値のグラフ
ただし
4 講義の細目との一致度
7 各回の授業量
8 授業のレベル
SQ12 理解不足の原因
SQ14 不満者の改善意見
15~17 各教員別質問事項
の8項目は、数値の意味が他の項目と異なるので、除外してある。

グラフについて
青系:今回
ピンク系:前回



説明:
・平均は、項目4以外は、回答1~5の回答数にそれぞれ1~5を加重した平均値である。
・項目4のみは、回答1の質の違いを考慮して、回答2~5の回答数にそれぞれ1~4を加重した平均値である。
・項目7,8は回答3が最適値である。



平成 30 年度前期 授業改善アンケートの概要

[I]はじめに

授業改善を目的として、平成 30 年 7 月 10 日（火）～平成 30 年 7 月 27 日（金）にわたって、学生による「授業改善アンケート」を原則として前期に開講される全科目で実施しました。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（*1）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライド、手本や見本は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	06. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	07. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	08. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	09. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	10. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	05. あなたはこの授業に積極的な姿勢で臨み、主体的に学びましたか
	13. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	11. あなたはこの授業を通して、学ぶことの大切さや楽しさ（面白さ）を感じられましたか
	12. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	14. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

*1：問 04・問 07・問 08 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

集計区分	総合計	開講曜日		開講時間		開講場所		回答者	37,676				
担当教員								回答率	81.3%				
履修者数	46,344												
		回答5		回答4		回答3		回答2		回答1		平均	前回平均
1 声や言葉の明瞭性	5.明瞭	17,002	4.ほぼ明瞭	13,528	3.どちらとも言えない	5,103	2.やや不明瞭	1,317	1.不明瞭	654	4.19	4.14	
2 板書や資料等の見やすさ	5.見やすい	15,371	4.比較の見やすい	13,219	3.どちらとも言えない	6,309	2.やや見にくい	1,765	1.見にくい	806	4.08	4.00	
3 教材の使用法の適切性	5.役に立った	18,938	4.少し	11,278	3.どちらとも言えない	5,606	2.あまり	1,092	1.役立たなかった	470	4.26	4.24	
4 講義の細目との一致度	5.その通り	17,493	4.ほぼその通り	14,309	3.少し違った	2,963	2.かなり違った	314	1.読まなかった	2,266	—	—	
5 授業への積極性と主体性	5.そう思う	13,695	4.ややそう思う	15,085	3.どちらとも言えない	7,346	2.あまりそう思わない	985	1.そう思わない	385	4.09	3.98	
6 授業の雰囲気	5.適切	16,131	4.ほぼ適切	13,278	3.どちらとも言えない	6,677	2.やや不適切	816	1.不適切	442	4.17	4.16	
7 各回の授業量	5.多い	4,612	4.やや多い	9,780	3.適切	22,367	2.やや少ない	511	1.少ない	223	—	—	
8 授業のレベル	5.高すぎる	3,389	4.やや高い	11,408	3.ちょうどよい	21,795	2.やや低い	616	1.低すぎる	228	—	—	
9 教員の熱意	5.伝わった	15,650	4.ほぼ伝わった	13,660	3.どちらとも言えない	6,679	2.あまり伝わらない	844	1.伝わらない	605	4.15	4.12	
10 授業方法の工夫	5.工夫されていた	12,274	4.比較的工夫	13,676	3.どちらとも言えない	9,341	2.あまり工夫されてない	1,255	1.工夫は見られない	739	3.95	3.86	
11 学ぶことの大切さや楽しさ	5.感じられた	12,598	4.やや感じられた	13,187	3.どちらとも言えない	8,804	2.あまり感じられなかった	1,669	1.感じられなかった	1,069	3.93	3.85	
12 授業の理解度	5.よく理解	8,838	4.ある程度理解	14,770	3.少し理解	11,262	2.あまり理解できない	1,710	1.全く理解できない	512	3.80	3.73	
SQ12 理解不足の原因	5.自分の勉強不足	1,042	4.勉強の仕方がわからない	1,215	3.専門用語などが難しい	1,464	2.授業のポイント不明	977	1.その他	164	—	—	
13 授業以外の学習	5.よくした	4,667	4.ある程度した	9,090	3.少しした	13,026	2.ほとんどしない	5,995	1.全くしない	3,817	3.13	3.04	
14 総合的満足度	5.満足	10,292	4.ほぼ満足	12,533	3.どちらとも言えない	9,153	2.やや不満	1,117	1.不満	753	3.90	3.85	
SQ14 不満者の改善意見	5.学習の仕方等の指導法	916	4.各回の授業量レベル	699	3.板書の仕方話し方など	1,140	2.配布資料などの教材	384	1.その他	207	—	—	

[II]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。その上で、学科などで議論した結果、次のような対応策（アクションプラン）と学生への要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

- ・「8. 授業のレベル」に対しては、「やや高い」と「ちょうどよい」と回答する学生の割合が多い。質の高い授業内容を維持するため、教員は、学生が感じるより、やや高め授業レベルを目指している。今後も現在の授業レベルを維持していきたいと考えている。
- ・今回から授業改善アンケートは、原則全科目が対象となった。よって前回の結果と今回の結果とを単純に比較することはできないと考えている。今後、前期・後期も含め対象科目を同じにしてアンケート結果比較し、改善点を精査していきたい。

【学生への要望】

- ・これまでの懸念事項であった「13. 授業以外の学習」に改善が見られたことを評価したい。教員は、さらに授業を改善する努力を続けるとともに、引き続き、学生に対して授業以外の学習を促していきたい。授業内容に対する理解を積極的に進めてもらいたい。

自然環境学科

【学科の対応】

- ・東京西・千住キャンパスとも各項目において5段階評価の評価4程度かそれ以上であり、特に大きな問題はない。
 - ・千住キャンパスではほぼすべての項目で前回は上回っていた。
 - ・しかし、両キャンパスとも授業以外の学習で「少しした」が一番多く、評価3程度で前回と変わりはない。
- ↓
- ・授業以外の学習を「ある程度した」の方向へ向かわせる方策、例えば予習、課題、調べ学習、小テスト（復習）などの量や出し方（時期や方法）の検討がなされた。

【学生への要望】

- ・少しでも疑問に思ったことはそのままにしておくのではなく、図書館などで調べ、自ら解決する努力を行ってほしい。
- ・図書館などで調べても解決しない場合は、教員に調べる方法や疑問に思ったことを直接質問するなどしてほしい。

アニマルサイエンス学科

千住キャンパス

【学科の対応】

- ・各教員はアンケート結果を鑑み、授業の改善に反映する作業を続けている。
- ・授業の理解度や到達度を高めるために、授業中に復習の時間を用意する、穴埋め式まとめのプリントの配布、小テストの実施、教室を回って質問する、暗記の時間を用意するなどの工夫を行っていることが、学科内の話し合いで明らかになった。
- ・本学科は各学年の学生数および必須科目が多いため、授業の運営や改善のハードルが高い。今後はアンケート結果に関しての検討を個人だけでなく学科レベルで実施し、授業の質向上に努めることを確認した。

【学生への要望】

- ・授業以外の学習の時間を確保してほしい。
- ・調べる、読む、覚えるなど、学習の習慣を身につけてほしい。
- ・配布されたプリントを見るだけでなく話す内容や板書を書き写すなど、各自が積極的に授業に参加してほしい。

東京西キャンパス

【学科の対応】

- ・授業改善アンケートの結果を学科会議（キャンパス別）でとりあげ、全体的な傾向について共有し、アンケート結果の活用方法について再整理し共有しました。
- ・授業改善の具体的な方法について、教員間でアイデアを共有します。
- ・記述式のコメントの一部について、コメントを返すを試みます。
- ・それぞれの教員の授業改善の取り組み事例について共有し、全体的な向上を目指します。

【学生への要望】

- ・アンケートは、学生からフィードバックをもらう重要な機会です。授業改善の目的を理解した上で記述をお願いします。
- ・授業の改善のためには、教員と学生の双方の努力が必要です。基本的なマナーの遵守を意識してください。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

- ・アンケート結果は全体的に前回と大きな変化なく推移しており、学生への学修の働きかけが一定の水準の維持に役立っていると考えられる。
- ・「授業以外の学習」を促すための前回授業分の振り返りとしての小テスト、また実技試験の実施、レポート課題などは継続して実施していく。
- ・小人数のグループワークを中心とした授業や、多数教員によるオムニバス授業、実技系授業における複数教員の同時配置など、個別対応を意識した学生への介入を継続して実施していく。

【学生への要望】

① 授業への出席について

- ・講義では教員の実際の臨床での経験など、教科書に書かれていない重要なことが話されます。また、実技は教科書を読んだだけで習得するのが困難なことはご承知の通りと思います。授業には必ず出席してください。

② 授業をより理解するための学習方法について

- ・医療系の学科では専門用語を習得することはその後の実践的学習において大変重要です。教科書や授業資料だけでなく、大学の図書館などの資料を用いて用語の習得に取り組んでください。そして、分からないことをそのままにせず、科目担当教員や助言教員などに相談し、必ず身に付けるようにしてください。
- ・休み時間や授業の空き時間には実習室を積極的に活用しましょう。

作業療法学科

【学科の対応】

- ・今回のアンケート結果において、「授業の雰囲気」「教員の熱意」については、前回よりも若干低いポイントであった。一方、「授業方法の工夫」「学ぶことの大切さや楽しさ」「授業の理解度」「授業以外の学習」「総合的満足度」は全体的に若干高くなっている。しかし、「授業以外の学習」でほとんどしない、全くしないという項目が前回よりも若干ポイントが高くなっている。「理解不足の原因」の授業のポイント不明の項目が前回より 7,9 ポイント高い結果である。作業療法がわかりづらく、イメージをもって学習することが難しい可能性があり、いかにして興味や価値を高く持たせるかが重要になると思われる。ケーススタディーを通してリアルな授業の構築を心がけることや、基礎科目を専門科目の裏付けとして利用し、根拠の理解を深めさせることが必要であると思われる。
- ・学生が興味を持って授業に参加できる工夫を行う必要がある。授業に積極的になれない学生がいるときに、学生側の問題としてとらえることも必要であるが、学生が興味を持つ授業を行うことができているのかを教員側が検討する必要がある。

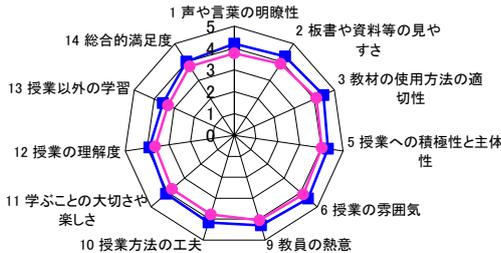
【学生への要望】

- ・介護や福祉系のボランティアなどを通して、作業療法に対する興味を高めてほしい。
- ・レポート提出などの期限など、ルールをしっかりと守ることができる行動をとれるようになってほしい。
- ・自らが興味を持ち積極的な学習が行えるような工夫をしてほしい。将来的に対象の人がどう生きるかを支援する専門職としての責任を考えつつ学習してほしい。

柔道整復学科

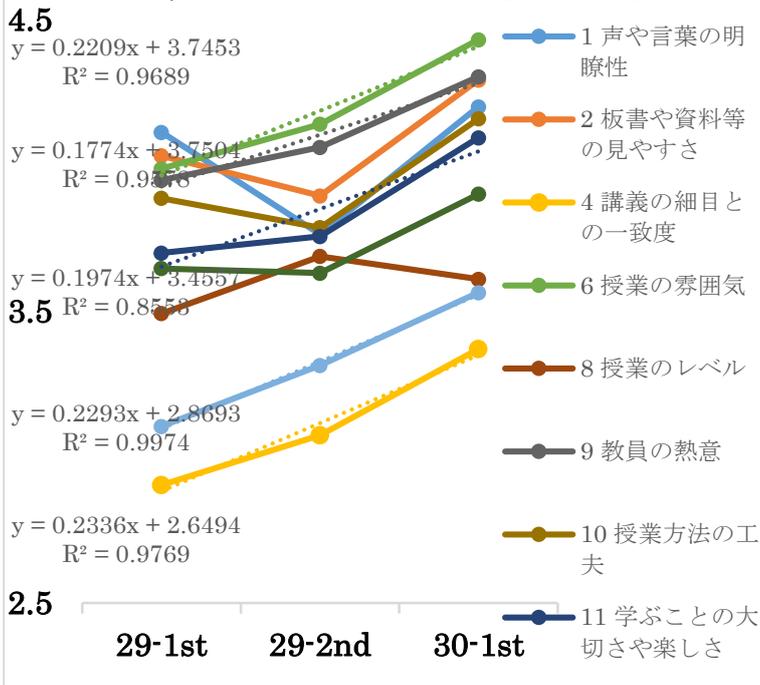
【今回の結果】

グラフ 1



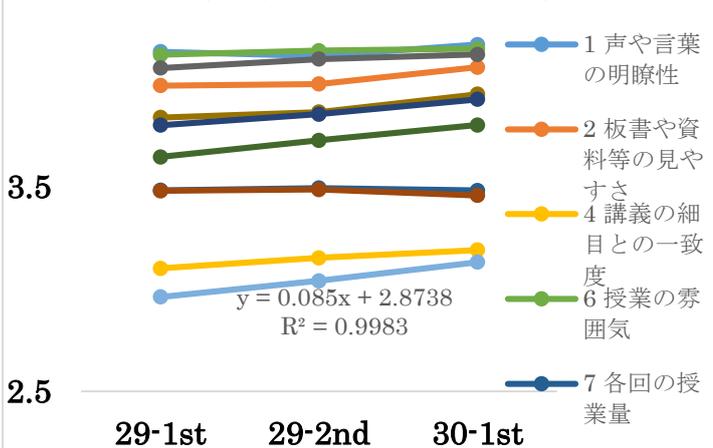
グラフ 2

柔整学科 1年間の授業評価



グラフ 3

全学1年間の平均授業評価



グラフ 1. 左記のように、今回（外側）の形態は前回（内側）よりは全体的にプロポーションが平均化された。つまり、今まで低いレベルであった「授業以外の学習」が一般項目のレベル(3.5 ポイント)まで達した結果である。

このことは、学科内の先生方に1年間かけて「消化不良にならない程度の自宅学習や小テスト実施」を呼びかけ、先生方に実施していただき、このことを成績にフィードバックして「自宅学習という努力を成績に反映させた結果」であると考えられる。このように、この1年での詳細なアンケート項目別の推移（グラフ 2）で示される。

グラフ 2の「授業以外の学習」はNo.13で示したように、項目内では上位より11番目のレベルで、本学・本学部学生に特徴的といえる。

しかしながら、本学科のこの項目が1年間に+15%(p<0.5)の上昇(y=0.2293X)を示す。

グラフ 3は本学の1年間の推移であり、どの項目に至ってもほとんど変化がないし、ここでも「授業以外の学習」は最低値を示している。

グラフ 2およびグラフ 3の「講義の一致」も低値を示しており、[いい加減な指標しか示さない講義が多い]ことを示している。(y=0.233X)

グラフ 2の最高値を示す「授業の雰囲気」は、上昇度も高く(+13%, p<.05)、この近似線((y=0.2209X)の上昇度に最も平行なのは、上記「授業以外」の値で、「学ぶことの楽しさ・大切さ」(y=0.197X)、「教員の熱意」(y=0.177X)より近い。

【学科の対応】

- ・これからも、自宅学習・時間外学習・教員室での学習を進めて、さらなる学習効果を求めるように努力したい。
- ・学生への「学習の目標を立てる（細目）」の確立は必須事項として取り組む。
- ・学習の雰囲気づくり（グループ化）にも気を配って

【学生への要望】

- ・「クラス・学科内の雰囲気づくり」は、諸君らみんなで国家試験に立ち向かおうとする「人間形成の力」。
- ・「学問での人間形成の力」を信じて我々についてきてほしい。「時は今...」時間を無駄にせずに学問を。
- ・我々教員はつねに君たちのそばにいる。学問の連帯意識は何事にも「Break through」が可能である。

東京理学療法学科

【学科の対応】

東京理学療法学科では、臨床能力向上や国家試験合格を目標とする知識や技術の定着を図るため、必修科目の多くの科目に複数教員を配置するようにしております。

H30年度前期科目では、「学生からの総合満足度」に関する項目で昨年度と比較して、わずかに向上（3.66 から 3.73）しております。しかし、大学全体の総合計（3.90）と比較するとわずかに低下しております。

各項目の比較に対する留意する点は、「項目 10：各回の授業量」が 3.63 から 3.65、「項目 8：授業のレベル」が 3.70 から 3.62 とほぼ同水準の数値となっており、一定の講義内容が担保されていると考えられます。また、「項目 1：声や言葉の明瞭性」が 3.89 から 4.02、「項目 3：教材の使用方法的適切性」が 4.12 から 4.06 と高水準には保たれているものの、学科教員による講義内の教授方法へのさらなる工夫が必要であると考えております。

学科として重要視している「項目 12：授業以外の学習」も前回の 3.13 から 3.13 となり、変わらず低水準を推移しており、今後、講義外における実技練習や課題の取り組みなど提示できるように考えております。学科の教育体制は現在の方向性を維持しながら、専門職教育上の質を向上させる取り組みを検討していきます。

- ・項目 1, 3, 6 の「学生からの評価に関する項目」は、前回よりもやや低下が認められますが、「4」以上の一定の評価が得られております。項目 7「各回の授業量」、項目 8「授業のレベル」は、ちょうど良い、適切との評価が得られていることから、学科全体として、現状の教育レベルを維持や改善を図るよういたします。
- ・項目 4「講義の細目との一致度」は、3.17 から 3.05 と若干の低下を認めておりますが、依然として低い傾向を示し、今後、シラバス作成を含めた授業内容の整理を図りたいと考えております。
- ・項目 SQ11「理解不足の原因」について、「勉強の仕方が分からない」が 48.3%、「専門用語などが難しい」が 45.0%とそれぞれ増加していることから、学習習慣や基礎的理解が難しいことが示唆されます。今後、授業内での専門用語解説や、下位学年教育における学習方法指導などをより充実させることを検討していきます。
- ・項目 12「授業以外の学習」が低水準であるが、授業内の小テストや課題など授業外の学習習慣が形成できるような取り組みを計画したいと検討していきます。この取り組みを継続する上で、授業外学習を希望する学生から「実習室に人が多すぎて実施できない」という声も聞こえてきており、対応を検討していきます。
- ・小人数のグループ制による能動的な授業参加や複数教員によるオムニバス授業、実技系授業における複数名の専任教員の配置などを実現し、多面的な学生への介入を継続し実施していきます。

【学生への要望】

①授業への出席について

- ・日々の授業は、教員の臨床経験などを含み教科書に書かれていない重要な内容も教示されます。特に、理学療法技術（実技）は教科書を読むだけで習得することは困難です。実技系授業は理学療法に必須となる技術（実技）のポイントを中心に教示するので、授業には必ず出席してください。

②授業をより理解するための学習方法について

- ・「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」があり、「授業の理解度」の不十分な学生が見受

けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、資料を用いた予習・復習など積極的に自己学習に取り組める環境を整えて下さい。

- ・「理解不足の原因」を抱える多くの学生には「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」ということがあります。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに相談し、まずは、勉強の仕方を身に付けてください。
- ・シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

③課題提出について

- ・課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。

④授業外学習について

- ・休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。少しずつ相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

東京柔道整復学科

【学科の対応】

- ・アンケート結果としては、良い結果と考えられる。
- ・助言学生への個別の学習指導体制を強化する。
- ・アンケート項目〔13. 授業以外の学習〕について、回答4（ある程度した）今回：31.9が、回答3（少しした）今回：37.8を上回る回答が必要と考える。そのためには、授業单元ごとに問題を準備する。その問題を授業以外での課題とすることで、学生が復習しやすい環境をつくっていく。
- ・アンケート項目〔12.理解不足の原因〕について、①回答4（勉強の仕方がわからない）の学生が27.0と比較的多い印象をうける。また、②回答2（授業のポイント不明）も23.2とやや高めである。これらに対し、①教員が自分の経験上有効であったと感じる勉強法などを授業内で適宜学生に案内する。（ただし、強要はしない）学生間でお互いがどのように勉強しているかの情報交換をするように促す。②授業内での重要な箇所においては進行において時間をかける。事前に重要であることを周知したうえで本題に入る。一見で目立つような板書をする。など教員側で対応する。
- ・授業展開の手法に関する講習会などの実施を検討してはどうか。（学科内教員間での情報の共有、学科外講師による講義）
- ・助言教員ごとの学習指導への取り組みの共有
- ・理解不足の原因として「勉強の仕方がわからない」と回答した学生が27%もいることを踏まえ、アドバンスセミナーなどを活用し、上級生で好成绩の者の勉強法の体験談の発表を企画し、年齢が近く、同じ学びをする目線での助言を活用させるとともに、学生間における縦の関係の構築を狙う。

【学生への要望】

- ・予習復習の習慣化
- ・学習の工夫、努力の継続
- ・助言制度を有効活用して、助言教員に相談を行いながら個々の勉強方法の確立をしてください。
- ・日々の授業以外の勉強時間を確保して下さい。
- ・授業以外の学習ができていない方、自分の勉強不足を感じている方は、学習のための時間を確保するなど日常生活の見直しを行い、自ら学ぶ習慣をつけてください。
- ・学習の仕方がわからないと感じている方、学習の仕方について指導してくれないと不満を感じている方は、そのままにせず助言担当や科目担当に相談をしてください。
- ・黒板が見難い、声が聞き取りにくいなどと感じている方は、座席を前のほうに移すなどの配慮も可能ですので担当教員に相談してください。

- ・資料や板書などについてご意見がある場合は、可能であれば担当教員に直接申し入れるか、助言担当、学科教務委員などに相談することを検討してみてください。
- ・理解不足の原因として「自分の勉強不足」と回答した者が 25.5%おり、自覚しているにも拘らず、自らの生活を省みない点に対し、勉強時間の計画書、国家試験までの逆算カレンダーなどを作成し、計画的な学習をすることを強く望む。

看護学科

【学科の対応】

- ・平成 30 年度前期より、(実習以外の) 全科目のアンケートを実施しており、40 科目中、前回比較がある科目は 5 科目であり、残りの 35 科目が合計された今回の結果が学科での平均値と考えられます。
- ・12 授業の理解度は、看護学科平均は 3.74 であり、総合計 3.80 に比べて低い。その理由を問う SQ12 理解不足の原因では、「専門用語などが難しい」が前年の 22.2%から 36%に、「授業のポイント不明」が 21%から 33.5%に増えており、授業のポイントを明確に示し、専門用語の分かりやすい説明を心掛けます。
- ・13 授業以外の学習では、3.33 と前回 (3.26) や総合計 (3.13) と比べてやや高いですが、他の授業の中で行っている(内職している) ことも見受けられるため、課題の提示はシラバス等に予め明示するようしていきます。
- ・学科の FD 研修会を行い「学習者に分かりやすい成績基準の明示」などを学びました。学んだ結果を取り入れて、学生へのシラバスを充実していきます。

【学生への要望】

- ・各科目の授業をよく聞いて理解に努め、わからないことは質問し、学びを積み重ねていけるようにしましょう。

医療福祉学科

【学科の対応】

- ・今回のアンケート結果においても従来と大きな変化はありませんでした。特に授業以外の学習の低下が気になります。シラバスに記載されている予習・復習を主体的に行い習熟度を高め、効果的な学習方法の習得に向け努めていきます。
- ・各回毎に達成目標を確認したり評価を明示し、学生自身が自分の到達度の認識や達成感を持てるよう、授業への意欲を喚起していきます。
- ・初年度教育や基礎ゼミナールをとおして、福祉職としての姿勢を培うため、地域活動を行っています。地域住民とのコミュニケーションをとおして地域住民の生活困難を理解するための調査や実践力を培います。
- ・カレー甲子園、フレッシュマンセミナー、健康科学セミナーなど小グループ制による福祉専門教育の基本的な体験学習等の目的意識を高め、福祉マインドを醸成していきます。またそれらの地域貢献活動を介して、段階的に学生・教員・地域の 3 者のより良い関係づくりを目指しています。
- ・保護者会を実施し、教育体系の理解や学習環境の整備、国家試験のための協力体制や就職活動に向けて相談体制と連携を強化します。また大学(教員)・学生・家族の身近な関係づくりを通して連携や「学生が学習に集中できる」環境づくりを行います。
- ・ガイダンスやオリエンテーションを充実させ、学科目標・4年間を通した授業内容・指導方針、学習方法及びマナーの習得などを目指します。
- ・授業オリエンテーションにおいて、教科担当による学修内容の説明や意見交換ができる場を充実させます。

【学生への要望】

- ・毎年理解不足の原因として、①専門用語が難しい、②勉強の仕方が解らない状態が続いています。一方授業外の学習時間は少ない状況がみられます。

予習として、教科書・資料等を読むこと、解らないところは、事前に下調べをすることをお勧めします。授業中は、ノートに記述し読み返す、またそれらをレポートにまとめるなど自主学習時間をつくりましょう。

また専門用語キーワード用のノートを作成して、理解を深めましょう。

- ・福祉人材として自己判断力や協調姿勢が求められます。仲間と学習する時間を作りましょう。コミュニケーション力を高め、お互いの考えや知識を共有することができます。
- ・福祉六法・介護辞典・医学事典・看護辞典等の辞典を活用し、授業で出てきた法律の内容や専門用語の意味を覚えていきましょう。国家試験受験対策にもつながります。
- ・教科書や新聞を読む習慣を付けて、社会事象を実感できるようにしていきましょう。
- ・将来像を考え、自分が何を学び、どのような仕事につきたいのか等、学習目的を持って授業に参加しましょう。積極的な授業参加の姿勢を身に付け、私語はしないように自覚しましょう。
- ・アルバイトと学習のバランスを考え、予習・復習できる時間を持てるよう整理していきましょう。

●こども学部

こども学科

【学科の対応】

今回より、全科目が評価対象となりましたが、各項目に関する評価数値は、前期の結果と概ね大きな変動は見られません。全体データから、学科として所属教員に周知すべきことは以下の点であると考えます。

- ・《学ぶことの大切さや楽しさ》について「感じられた」「やや感じられた」が 76.2%であり（前回 78.6%）、前回と同水準である。およそ 2 割の学生は、授業の過程で学びの楽しさや意義について実感できていない状態にある。引き続き、学生により分かりやすい、手応えを得ることのできる授業実施を、各教員は留意する必要がある。
- ・《不満者の改善意見》については、主に「学習の仕方」（44.4%）「板書の仕方」（40.0%）であり、前期アンケートと同様の結果である。引き続き、学びを定着させるための助言まで含めた講義を行うこと、また、学生に対して可視化された、ノートを取りやすい授業を、各教員は留意する必要がある。

上記に関連して、授業の《理解不足の原因》の原因として、「専門用語などが難しい」「授業のポイント不明」が挙げられる（2 項目の合計で 50.1%）。その日の授業の「何が大切で、何を特に学ぶべきなのか」という観点を持ってないまま、授業に臨んでいる学生が相当数存在することが考えられ、講義中心の授業については、授業の導入場面での復習や、内容の視覚化などが具体的な改善案として考えられる。

【学生への要望】

- ・前期に課題とした《授業以外の学習》（復習）については、「よくした」「ある程度した」の割合が 9.0%（33.5%→42.5%）増加し、こども学科として、とても嬉しいです。学んだことを記憶として定着させるために、引き続き復習に取り組んでください。また、保育、教育、福祉の現場に出て、大学で学んだことと照らし合わせてみることも有効です。時間の許す範囲でボランティア活動にも取り組んでみてください。
- ・座席自由の科目では、前方席の学生の方が、後方席の学生より成績が良いという結果が出ています。前の方が授業内容に集中できること、また、教員との対話も生まれます。いつも後方に着席している学生は、ぜひ、前方席に着席してみてください。

児童教育学科

【学科の対応】

- ・学ぶことの大切さを伝えるよう学科として取り組む。
- ・4年生だけなので、授業数、受講者も少ないからか、概ね良い反応と読み取れる。残り少ない期間の授業にしっかり取り組む。

【学生への要望】

- ・評価への興味関心が強く、結果ばかりを追いかけているように感じられる時がある。評価の対象とならないとやらないではなく、学習意欲、関心を持って普段から取り組んでほしい。

- ・社会人になる気構えをもってほしい。
- ・予習・復習を心がけてください。
- ・席指定がない場合、後ろにいかないで前から座るよう心掛けてください。

幼児保育学科

【学科の対応】

- ・学生が自分で学ぶ意欲を養い、授業以外の学習にも取り組めるよう、基礎ゼミなどを利用して早い段階から学びに対する姿勢を身につけさせる。
- ・学科としてどのような保育者・社会人を目指すかを明確にした上で、学生に周知していくことが必要だと思います
- ・学外での学修をどのようにさせていくとよいか、学科内で意見・情報交換をして、改善を図っていくことが必要かと思う。
- ・欠席回数に気をつければ単位をとれるといった安易な風潮を一掃する。

【学生への要望】

- ・人の話を聞くことに対する最低限度のマナーは守ってほしい。
- ・大学へ学びに来ているという自覚をもってほしい。
- ・各自が自律的に学修へ向かう姿勢をもってほしい。（関係性が気になるのか、他学生にひきずられて学修状況、態度が悪くなる学生がいる）
- ・授業外の予習復習の学習時間が全体的に不足していると思う。大学生であるという自覚をもって学習時間を確保してほしい。
- ・評価を気にしている学生が多い気がします。結果としての評価だけではなく取り組む姿勢や過程を大切にしたいと思います。
- ・生活習慣を見直す(遅刻や授業中の睡眠を減らすため:寝ていると静かだからと起こさないのも問題である)
- ・学力の差が大きく授業外での課題の量が多いと感じる人と少ないと感じる人がいるようです。大学生としての自覚を持ってほしい。
- ・単位が足りなくてしかたなく興味のない科目や他学科履修等をしていながら、この授業は役立たないなどというのは筋違いである。

学校教育学科

【学科の対応】

- ・「理解不足の原因 (SQ12)」について、3.専門用語、4.勉強の仕方、5.勉強不足が減少し、2.授業のポイント不明が3倍増していることは、学生の授業への取り組みが前向きになったと理解したい。前回に比べて全体的にポイントが減少している中で、授業以外の学習が微増していることはこの表れと考えている。この動きを大切にしていって取り組んでいく。
- ・「3: どちらとも言えない」よりも良い評価(5と4)の割合(%)が「千住総合」のアンケート結果よりも高い項目は、9項目(1~3、5、6、9~11、14)中8項目だった。とくに5%以上高い項目は、「5. 授業への積極性と主体性」(5.4%増)であった。概ね学科学生たちから学科の授業について一定の評価を受けているものと考えられる。
- ・「12. 授業の理解度」と「13. 授業以外の学習」については、それぞれ「3少し理解」や「3:少しした」よりも良い評価(5と4)の割合(%)は、「千住総合」のアンケート結果よりも「12. 授業の理解度」で9.1%増、「13. 授業以外の学習」で10.5%増という結果であった。「13. 授業以外の学習」の取り組みが「12. 授業の理解度」にプラスに働いている可能性が考えられる。今後も、授業の進め方や授業以外での学習を促す課題を適切に設定し、「学び続ける教員」へと成長できるように支援していきたいと思う。
- ・全学生の1割強である「理解不足」の学生があげた「原因」は、「専門用語などが難しい」が3分の1強、「勉

強の仕方がわからない」と「自分の勉強不足」がそれぞれ4分の1となっている。授業の空き時間を使って、学生たちが教員に気軽に質問ができるように、各研究室や理科実験室、またはメールなどでも質問対応をし、適切な学習の支援ができるように学科として取り組みたい。さらに、各科目を履修する意義を自覚させるとともに、教員になる意欲や意識、資質・能力を高めるため、教職センターと連携して、定期的な教員採用試験模試、時間割外の教職関連講習や学校インターンシップを今後も実施していく。

- ・全体集計の平均点に比べて学校教育学科の平均は高い。しかし、全体集計では、ほとんどの項目で平均点が上がっているが、学校教育学科は全ての項目で前回より下がっている。この原因は前回までは1、2年生のみであったが、今回は3年生が加わったことによるものか、逆に新入生の質の問題かは不明であるが、検討すべき課題である。
- ・授業アンケートの重要性あるいは真摯に答える意義の説明を学科あるいはコースごとに毎回行う必要がある。紙媒体1枚でもよいと考える。
- ・授業以外の学習スコアが他の項目に比して低いことから、学科全体として予習復習や授業外の学習の指示の方法やありかたについて今後検討すべきであると考えます。
- ・毎回宿題を出し、授業内容の振り返りと、予習ができるように配慮している。
- ・ほぼ、前回と同様で、これまで通りの対応で良いと考える。

【学生への要望】

- ・学習の仕方について迷っている人は、授業内容に関係しなくても身近な教員に尋ねてください。大学の教員も小中高の教諭も多く共通点があります。教育的指導者になれるよう、ともに頑張りましょう。
- ・「12. 授業の理解度」では、「3:少し理解、2:あまり理解できない、1:全く理解できない」の合計が約27%でした。一方、「13. 授業以外の学習」の内訳をみると、「3:少しした」、「2:あまりしなかった」、「1:全くしなかった」がそれぞれ28.8%、12.2%、10.4%であり、学科の半数以上の学生があまり授業以外の学習を行っていません。さらには、1割もの学生に至っては「全くしなかった」という実態があります。授業ではしっかりと説明を聞き、授業内で理解できるように努めて下さい。さらに、できるだけ予習をして授業に臨む、理解しにくかった項目は授業中や授業後に担当教員に尋ねる、図書館等で調べるなど、授業外の学習を充実させるように心がけて下さい。
- ・授業以外の学習していない人がいるので、決められた予習・復習をして授業に臨んでほしいです。
- ・講義細目との不一致を指摘している人がいるが、事前にシラバスをよく読んで理解をしてほしいです。
- ・授業アンケートは、大学教育や個々の教員のこれからの授業の改善につなげるものである。きびしい、注意された等に対する個人的感情を記入するものではないことは十分に認識してほしいです。
- ・授業以外の学習スコアが他の項目に比して低いことから、教員の指示しに互い予習復習を行ったり、必要に応じて復習やテキストの予習を行うなど、主体的な学習を行う習慣を形成してほしいです。
- ・学びへの主体性をもって授業に臨んでほしいと思います。
- ・遅刻欠席しないようにしましょう。
- ・毎回、授業への取り組み（机の上をきれいにする、飲み物をしまう・・・）等々を注意しなければならないのは情けないです。

●総合教育センター

【総合教育センターの対応】

- ・アンケート結果は前回と比較しても大きな変化は見られません。総合教育センターとしては、今後も質の高い授業を維持していきます。

【学生への要望】

- ・授業では、静かに話を聞くという基本を守ってください。
- ・授業の復習にしっかり取り組んでください。特に、配布された資料は授業終了後に自分で読み返して内容を

確認し、理解するよう心掛けてください。

- ・宿題（課題）も忘れずに取り組みましょう。
- ・しっかりとノートをつける習慣をつけ、自力で良いノートが取れるようになりましょう。
- ・少しでも疑問があれば、担当教員に直接質問してください。

●教職センター

【教職センターの対応】

- ・全体的に学生からの評価が前回は上回っており、満足度は高かったといえる。しかしながら、両キャンパス共に「授業以外の学習」の項目が低い評価となっている。選択科目であるため、過度な負荷をかけることはできないが、検討の余地はある。
- ・自由記述欄に、「説明がわかりにくい」「つまらない」などがみられるため、専門的な用語を丁寧に解説できるよう改善を図る必要がある。
- ・教職センター開設科目はすべて選択科目であることを鑑みて、学科の単位に影響を及ぼさないよう配慮はするものの、学生に対しては高い意識をもって教職課程に臨んでいけるよう丁寧な指導をしていきたい。具体的には、教職関連ボランティアや教員採用試験対策講座への参加を促しつつ、教職課程履修者のキャリア支援をおこなっていきたい。

【学生への要望】

- ・アンケート実施の際、学生自身も授業への取り組みについて振り返り、自身の学び方について考える機会としてほしい。
- ・教職センター科目(生命環境学部教職課程)については、選択科目であるため学科の単位修得が順調であることが履修者の前提である。その上で、高い意識をもって教職課程の授業に臨んでもらいたい。
- ・将来、教員を目指す学生については、1，2年生のうちから教育現場でのボランティア活動に積極的に参加し、経験を積んでほしい。なお、ボランティアや教員採用に関する情報は、教職センターで集約しているので数多く足を運び、情報収集に努めてほしい。

FD委員会では「授業改善アンケート」の改善を検討しています。ご協力をお願いします。